

自分や家族、周りの人のため
ひとりでも多く健診を受けてほしい――

自分のため家族のため
ガン健診は早めに
受けましょう

健診・がん検診の受診を呼び
かけるのぼり旗を地域に設置

きくち のぼる
菊池 昇 さん

Kikuchi Noboru (野尻町紙屋)

野尻町紙屋の漆野原。あじさいが咲き誇る市道にのぼり旗が立っている。

「ガン健診は早めに」

鮮やかなピンク色のこの旗は、道行く人に強く呼びかける。

菊池昇さん64歳。ガンと闘いながら、のぼり旗を立て、健診の大切さを訴えている。

菊池さんは水道設備会社を経営し、家族を支えてきた。仕事は忙しかったが、丈夫な体に恵まれ、大きな病気もなく、周囲からも健康と評判だった。

菊池さんの身体に変化が表れたのは平成22年の11月。突然、胃の調子が悪く

なった。忙しかったこともあり、病院には行かず、胃薬を服用。調子も戻り、一時のものと思っていた。

昨年4月、再び胃の調子が悪化。病院に行き、検査を受けると思わぬ診断が下された。

病名は胃ガン。

血の気が引いた。これまで病院とは無縁で、健康と信じていた自分がガンに

入院が決まり、もう家には帰れないのではと思った。

入院中、身の回りは妻の美津子さんが世話をしてくれたが、次第に痩せていく姿を見て、苦勞をかけたことに自分を責めた。他人事だと思っていた病氣。酒は

飲まず、タバコも20年以上前に止めた。なぜ自分が。いろいろな思いが駆け巡った。当時務めていた区長も辞めざるをえなかった。

一方で家族や友人など多くの人に励まされ、人の温かさ、ありがたさを改めて胸に刻む日々。気持ちが変わると、身に染みて涙が溢れた。

何か自分にできることはないか。病氣になって、最も強く感じたこと。「もっと早く分かっていれば」ガンになった知り合いも、元氣になっている。そういつた人の多くは早期発見によるもの。「早期発見・早期



ピンクののぼりは、住民の協力を得て、紙屋1区の全組に配布、設置されています。

治療の大切さを伝えたい。」

今年初め、退院すると、健診の受診を呼びかける50本ののぼり旗を購入した。地域のの人に協力してもらい地区の各所に設置。また、機会があるごとに自分の体験談を人に話し、健診を勧めている。

現在、菊池さんは月に3回通院。抗がん剤を点滴し

て治療を続けている。

「どんなに忙しくても健診を受診してほしい。私も身をもって分かった。一人でも多くの人が受診して健康でいてくれれば」と菊池さんは語る。取材したこの日は強い風が吹いていた。それでも菊池さんが立てたのぼり旗はなびきながらも健診を呼びかけていた。

ぜひ受けてほしい 健診・がん検診

忙しい毎日の中で、私たちは自分の健康から目をそらしてしまいがち。しかし忙しいから、面倒くさい、このくらい平気、と自分の体と向き合わず、いつか大切な健康を失ったとき、その後悔は計り知れません。

「今まで病氣とは縁がなかった」と話す菊池さん。「もっと早めに受けていれば」と何度も語りました。しかし、発見が遅れ、大切な健康を失ってしまい、後悔をする人が多いことも事実です。そういった人が出てしまうのは残念でなりません。

市では、みなさんの健康を守るために健診や、がん検診を行っています。市民の皆さんに健診・がん検診を通して健康な毎日を過ごしてほしい。そのためには、ぜひ各種健（検）診を活用してほしい。市からみなさんに対する切なる願いです。

問 ▶ 健康推進課
連絡先 ▶ 23 - 0323